



RSウイルス感染症

発熱、鼻水、咳などの風邪症状から始まります。しかし普通の風邪と違って、呼吸のたびにゼーゼーしたり、呼吸が苦しくなることがあります、特に乳児においてはしばしば肺炎、気管支炎などの原因となります。

鼻水やのどの粘液を採取し、迅速検査で診断できます(外来診療では1歳未満の乳児しか保険適用されません)。

大阪市感染症情報センターによると、大阪府内では今年の7月中旬以降から8月にかけてRSウイルス感染症が流行していたようです。10~11月頃からはインフルエンザの流行時期でもありますので引き続き注意が必要です!



どんな症状?



- ① 感染してから数日後、鼻水・せきなどで発症します。
- ② 発熱期間はまちまちで2~3日で下がる場合や、5~7日かかる場合もあります。
- ③ 発症から少し遅れて呼吸時ゼーゼーと苦しそうな音が聞かれることがあります。
- ④ 新生児から乳幼児期にかけてのRSウイルスによる細気管支炎は重篤化しやすく、胸やお腹をペコペコへこませたり、呼吸回数が増え、苦しそうな息づかいになることもあり、顔色もわるくなります。肺炎を合併することもあります。

家庭で気をつけること



食欲が落ちてくるがありますが、母乳やミルク、水分をこまめに補給してください。1回分を少なめにして回数を多く与えましょう。

息苦しさやひどい時は、夜間でも救急受診した方がよいでしょう。

RSウイルスは大人も感染しますし、感染力が強いといわれています。

健康な大人であれば軽い風邪程度の症状で済みますが、こどもだけでなく高齢の方・体力の落ちている方は気管支炎や肺炎を起こすこともあります。

咳をしている大人の方で身近に乳幼児がいる時は、できるならば接触を避けたいものです。乳児のほうが重症化することが多いので、特に気をつけましょう。



おしらせ

平成30年度MRワクチンII期対象者は平成24年4月2日~平成25年4月2日生まれの方です